

経済とビジネス

令和6年9月17日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業が未来を有することは、市場における需要を行い、その先端性と独創性における自己の安定性を行うことである。

これらが企業システムの構築であり、企業の方針やビジョンとして求められるのである。

これら現実を完全に補足し分析することは正しい企業経営の構築である。企業が独自進歩性を自己において行い、市場の先端性を牽引することを求められる。

これらはコスト効率性、生産性において、その改善を行い、高い利益性を行うことで、企業が絶対的な強さを与えられるのである。

これらは決してトレンドへの隷属でなく、トレンドの牽引を求められることなのである。

これらは正しい理解における企業経営なのであり、理解の向上は社内における意識の向上を経て、優れた企業環境における優れた企業経営の確立を実現できるのである。

これらは現状の IT 革命を受け入れることで、IT システムにおける可能性を受け入れることで経営の自動化とともに、先端の企業環境への転換を実現できるのである。

これらはまた企業がその夢や理想を行動において模索することを提案するものである。

また社会との共存と強制は、社会活動とともに社会市民としての企業の新しい行動を求められるものである。

これら世界における企業の先端性は必ず独創性であるという理解を求め、企業の開発やデザインにおける新しい基準を受け入れ、自己のコアコンピタンスの構築を実現できるのである。

これらは時代性への隷属でない、新しい企業の挑戦であり、優れたソフト資産の構築における知的産業における新しい生産性や製品への転換なのである。